

SSKU

お元気ですか?  
**イリアンソス**  
です。

2010



なかま旅行にて。  
茨城県いこいの村澗沼(宿泊先)の庭で…。



かなえ旅行にて。  
だるま班で、富士山に登ってきました!

## 理事長の散歩道

### ケースワークの道 ①

## 特集

「地域で暮らす、地域で支える」

～新しい生活寮が始まる～

連載 **がんばれイリアンソス!**

社会福祉法人イリアンソス

●のぞみの家

東久留米市下里 2-7-18

042-473-9027

042-473-9036 (F)

iriansos@qq8.so-net.ne.jp

●活動センターかなえ

東久留米市南沢 2-20-51

042-451-0252

042-451-0262 (F)

kanae@yg8.so-net.ne.jp

●なかまの家

東久留米市中央町 2-1-47

042-472-7130

042-444-3722 (F)

na0317@zc4.so-net.ne.jp

●生活寮「うみ」「そら」

東久留米市下里 4-2-7

042-476-3400 (F兼)

umi-sora@dj9.so-net.ne.jp

理事長の散歩道



ケースワークの道 ①

社会福祉法人イリアンソス

理事長 山田耕一郎

林に秋が訪れると、落葉樹は紅葉してくる。夏の林に比べて、葉がおちていく分、隙間のできた枝の間に青空が顔を出し、落ち着いた雰囲気を作り出している。ところで、枯れ葉のカサカサとなる道を踏みしめていくと、少し難しい本でも、その頁をめくってみたい気分誘われて、社会福祉援助の一つであるケースワークについて取り上げてみた。

(第一原則) 個としてとらえる

バイステックは彼の著書「ケースワークの原則」(F. P. バイステック著誠信書房発行)で援助の対象者をクライエントと呼んでいる。しかし、ここでは支援対象者と呼ぶ。そして、その方に目を向ける時、次のようなまなざしで見つめることが大切である。

① 偏見や先入観から自由になる。

ともすると、問題が起きたり、それが繰り返されたりすると、偏見や先入観でみやすいものである。

② 広く行動から関する知識を自信の体験や判断力に裏付けておくこと。

つい、問題に対処しようとする時、自分の体験で判断してしまう。しかし、人間の行動に関する知識を、医学や心理学や精神医学や社会学から得て整理しておいて、判断の裏付けを厚くしておく必要がある。特に、近年の発達障害に関する知識は格段に進歩してきているので、それらに関する新刊書を求めたり講演を聴いてみる必要がある。

③ 話を聴く力と相手を観る能力を身につける。

難しいのは聴く力である。聴くよりは話す方に力を入れやすくなる。つい説得したり、説教したりしがちである。

「何度いったらわかるのだ!」

「同じことを何回も言わないで!」

「もう、そんなに周りに迷惑をかけるなら、来なくていい。帰ってください。」

「もう、あなたは大人です。少しは考えてください。」

④ 相手のペースで聴く力を持つ。

これでは、がまの塗り薬で気休めにはなるが、治療にはならない。

「はやく、なんとか言ってください。私は忙しいです。」では落第だ。

車のギアはパークに入れて、時間は一日四十八時間に切り替えて、しっかり相手のペースにのって聞かせてもらおう。よく、カウンセリングは聞かせてもらおう。よく、カウンセリングはきいてもらえれば半分は助かっていると言われる。

⑤ バランスのとれたものの見方を持ちつづける。

良いか悪いかの裁判ではない。ともすると、人は自分に都合が良いか、悪かで見えてしまう。左右に偏らない中庸の見方が大切と言われてはいるが、実際は自分に都合の良い方に偏りがちである。

これらの五つの援助者としての力は、支援対象者を障害者という集団の中の一人として見ているのではなくて、かけがえのない個人として据えてこそ初めて力を発揮するものである。

林にある木は、どれも同じようによく見ると違う。支援対象者も...。いや、我が子も家族もみんな同じである。みんな個として大切なのである。そして、人の心は体と同じよう風邪も引けば、病気にもなる。

1998年10月09日 第三種郵便物認可  
2010年12月07日発行 SSKU

(毎月3回8の日発行)  
増刊通巻 3682 号

風邪の時こそ、暖かく包み込もう。  
次号に続く…

# 特集

## 地域で暮らす、地域で支える。

〜新しい生活寮が始まる〜

2004年4月、当法人のグループホーム「生活寮うみ・そら」をみなさんのお力添えで開所することができました。

広報誌の中でもグループホームについて特集を組んできました。2008年夏号では、実際に「うみ・そら」に入居している利用者の皆さんの声や生活ぶりについてインタビューをしたこともありました。

「自分らしく・生き生きと」それぞれペースや形は違えども、この言葉通りに生活している姿は力強く、たくましく、そして輝いて見えました。

また、前号では様々な立場の親御さんから生活寮に対しての感想や期待することなど、お話を聞かせて頂きました。選択肢が一つではなく一人ひとりが違う暮らしを見つけていく場所であってほしいという願いが込められています。

### 住みなれた街で暮らす

2011年4月にはいよいよ第二の生活寮が開所しようとしています。

今回は、実際に4月から入居を控えている方のお母様方から、これからの期待や不安などを寄せていただきました。

障害があっても住みなれた街で暮らしたい。当たり前のことですが、この当たり前のことが、どれだけ難しくどれだけ幸せなことなのか、一人ひとりの想いを綴って頂きました。

生活寮建設。それには資金や多くの人のご支援も必要です。それは、今この時だけのものではなく、将来へと引き継がれて続いていくものでなければなりません。どんなに障害が重くても一人の暮らしを社会全体で支えていく。これは私達の大きな目標です。その為にも、皆が声を出していくことが大切です。一人でも多くの応援団と共に第二の生活寮をスタートさせていきましょう。

(吉田遊佑)

### 資金計画(予定)

2棟分を合わせて

総事業費	—————	113,044千円
充当財源	公的補助金 —	50,924千円
	借入金 —	46,000千円
	自己資金 —	16,120千円

### 募金の振込先

郵便振替口座番号 00180-5-33332

加入者名 イリアンソス後援会

※お手数ですが、通信欄に「生活寮募金」とお書き下さい。

## 私たちが応援しています!



絵本の絵を描く人  
山脇 百合子さん



女優  
石井めぐみさん



久保クリニック院長  
久保秀樹さん

## 自分のペースでゆっくりと



自慢のビーズ。素敵でしょ！

実は今迄・人ごとだと思っていた生活寮での生活。「入居決定通知書」が届き、いよいよ我が家にも来た。これが現実か：の想い。  
それ以来、親子共々何か精神的にモヤモヤが発生。とても嬉しくて有難いことなのに、心は複雑。42才迄同居と言う事が大きく影響しているのか、離れて暮らす寂しさなのか、第三者に託す事の未知の世界が不安なのか。  
私達には癒されていた部分が多く、それが日常消えていってしまう様な錯覚な

のか。全て無駄なとりこし苦労だったと思いたい。洋子自身にも心の動揺が感じられる事多々ありますが、むしろ親の方がだらしのない事になりそうな気がします。

さて「イリアンソス」になってからの発展は目覚ましく、障害者の地域での生活を少しでも充実させたいと考えて下さっている関係者の方々に感謝申し上げます。お陰様でとても満足な日々の生活を送る事が出来嬉しい限りです。

ずっとずっと昔の話。兄妹・姉妹・父親・母親、皆共に意識を持ち続けながら、覚悟を決めた親達を中心に、「のぞみ父母の会」の運営維持の為、障害者の将来の為に必死だった頃。古新聞回収（雨の日も風の日も）バザー作業（100万超の時も）手作り作業、市との折衝、職員の確保に奔走した日々。いろいろありました。懐かしい思い出です。

学童・卒後の行き場、最終的には親亡き後の生活寮、と着々と進めて頂き、この地域を去らずに本当に良かったと思う気持ちです。

今迄沢山のエネルギーを出しながらも、この施設を利用出来なかった家族、先が見えずにとうとうこの市を去って行った家族。長い年月をずっと見放さず

支え、協力し続けて下さっている一般の方々。何んと有難い事でしょう。今は運営、活動、ほとんどスタッフまかせ。これからは高年齢になった親子が無事に日々を暮らせるだけでもうそれだけでいいですよ：と言っただけで下さっている様

私達はこの地域で大勢の理解ある関係者に囲まれて、ひたすら感謝・感謝の気持ちです。

さあ第三・第四の人生の練り直しです。娘は新しい住まいで再出発、私達はまだまだもう少しエネルギーが残っている間に、夫婦の絆をとり戻し、邪魔をしない程度の社会参加。

人生のやり残しを少しでも少なく、大きなゆとりを頂いたと考え、余生を大事に過ごしたいと心を入れ替えます。大きな安心をありがとうございます！！

どうぞ娘を宜しくお願い申し上げます。

重松富士子(母)



## 笑顔 いっぱい



大好きなカラオケ。  
照れながらも、マイクを離しません。

「アップル号？」毎朝、送迎車は来るか、という言葉で、拓史の朝は始まります。毎日何回もの発作が少なくなり、言葉が増え、いろんな事ができるようになる。とともに、登校拒否が始まったあの頃を思えば夢のようです。サツサと着替え、サツサと菓を飲んでくれるのですから。(サツサとアップル号には乗れません。)

卒後はどうなるのだろうかという不安でいっぱいの日でしたが、さいわい福祉センターを経て、待ちに待ったかなえに通所、そして、今回、幸いな事に生活

寮も決まりました。

届いた決定通知書を見て、少々複雑な気持ちになりました。あと五年、いやがらばれば、十年ぐらいは家で看ることが出来るかも、などと、子離れできない親そのものです。

でも、それこそ幸いなことに、お隣に一足先に寮生活ががんばっている先輩の姿があり、もちろんお母さんからも、いろんな話を聞かせてもらっています。たので、不安よりも楽しみのほうが大きく、また心強くもあります。

拓史のすることは変わっていないのに、イライラしたり、ついため息をついてしまう自分がいます。父親は私以上に年とともに気が短くなってきたような気がします。生活寮に入っても、土日は家で好きな事をさせてやりたいと思うのですが、今でもこれが一番大変なことです。

このみに参加したり、ガイヘルでお出かけしたり、とにかく出かけることが大好き。一番は電車に乗るのですが、我が家は、ドライブ、そして釣り、時々、テニス、温泉と、拓史の人生を少しでも楽しいものにしてあげたいとの思いで、がんばってきました。

果たして、生活寮が拓史にとってどう

なのか？ただただ親の自己満足ではないか、いえ、それよりも、迷惑をかけるまいだろうかと、悩み始めたら、キリがありませんが、遊びで始めた釣りが、今では本当に楽しめるようになった事や、十人以上ウルトラマンのテープを聞かせていたら、歌うようになった事を思えば、時間がかかっても、拓史にも、それなり力があるものと信じて、親子共々、がんばりたいと思います。

今の拓史は、猫命です。寝る時は、2匹の猫、ミーチャン、コロチャンを抱いて二階に行き、一緒に寝ます。お泊りから帰って来ても、一番に「ミーちゃん」と家に入って行きます。生活寮に猫は無理ですから、たくさんの写真を持たせてやりたいと思います。それでも、猫会いたさに、脱走して帰って来るかもしれない。それが出来そうなくらい、近い距離の我が家です。

来春は拓史とともに、娘も巣立つて行き、我が家については、お父さんと二人になっちゃいます。拓史の事よりも、これが一番の心配な事ではないかと思ってしまう。猫がいなければやって行けないのは、私かも知れません。

かわいい子に旅をさせます。がんばれ拓史！

山田加代子(母)

# 成子さんのこれから……



落合川をみんなと散歩  
大好きな昭和歌謡曲を熱唱中です！

娘を親元から離して生活させること  
など思ってもいませんでした。  
決意のきっかけは、平成二十二年一月  
に義母の左大腿骨折で入院。その後、  
車椅子での生活を余儀なく、家での介護  
も無理の為に、老人保健施設入所三ヶ月  
での移動を言われ、たくさんの施設を見  
学。  
義母を通して成子の将来や、親の健康  
状態などを考えるに、親が元気なうちに  
見定めるべきかと思つてた折りに、生活  
寮入所希望のお知らせをいただき、家族

で話し合い、一大決心での入所の希望を  
お願い致しました。

地域で生活できることの幸せ、最高の  
チャンスに仲間入りさせていただきホ  
ットしています。

なかまの家(板垣さんが日中通つてい  
る施設です)からも、数人が入所とのこ  
と、これもまた、心強く見えています。

これから、いろんな問題や苦難は有る  
でしょうが、それぞれその時、課題を乗  
り越え安心して生活寮で生活できるよ  
う、親としてできることに努力してい  
きたいと思えます。

板垣順子(母)

18年間、なかまの皆と共に過ごして  
きた「なかまの家」は、成子さんが怒つ  
ている時も、甘えている時も、笑つてい  
る時も、体調が悪く不安定になって辛い  
時も、全部受け止め認めてくれる心強い  
仲間がいます。送迎中の車内で成子さん  
がよく口にする「なかまに行きたい。絶  
対行く。」という言葉は、安心できる仲  
間に心から会いたいと言う意味なので  
しよう。

4月から寮生活が始まりますが、持ち  
前の明るさで成子ワールドになる日は、  
そんなに遠くないことでしょう。

寮生活に入るにあたって、成子さんの  
生活習慣が大きく変わらないように、早  
目の時期からご家庭と連携を取り合い、  
スムーズな生活リズムの安定を大切に  
考え、心身の安定に繋げることを考えて  
いきたいと思えます。そして、なかま同  
様、安心できる仲間と居心地の良い生活  
になることと、地域の中で成子さんが生  
き生きと社会参加できるよう願ってい  
ます。

宮本(職員)



連載

がんばれイリアンソス!

この度、「うみ」「そら」での6年間の実績に基づき、新しいケアホーム2棟の計画が進んでいると聞き、その新たな挑戦を陰ながら応援する者として障害のある人たちの日々の暮らし及び地域の実態を改めて考えてみました。

地域であたりまえに暮らすためには、日中の場はもちろん「暮らしの場」(住まい)がなくしては成り立ちません。自宅、ケアホーム/グループホーム(以下CH/GH)、アパート/マンション、通所寮、入所施設などがありますが、知的障害のある人は自宅、CH/GH、入所施設が一般的になるでしょうか。

以前は、自宅で家族(親)による支援が困難になった場合、ほとんどの人が入所と決まっていたのですが、「どこに住み誰が支えるか」のキャッチフレーズの下、生活寮(現在のGH)が徐々に増え、その後、CH/GHの制度が整えられ「暮らしの場」として選択肢の一つになりました。そのニーズは年々高まってきたように思いますが、希望すればCH/GHを利用できる状況には到底及んでいないのが我が地域の現状です。土地・建物・人・金・近隣の理解・・・これらの要件を満たすのは並大抵ではありません。入所施設から「地域移行」の理念はあるものの、今だに入所百何人待ちの数は減ってはいないようです。

このような状況下、自宅での暮らしが本人の状態の変化や親の高齢化、親の死亡・兄弟の独立などによる家族構成の変化などによる支援力の低下、あるいは外見には、そう多くの支援を必要としているように見受けられない人でも水面下で問題が複雑化しているなど「暮らしの場」を自宅以外(親子分離を含め)にした方が本人のためにも家族のためにも良いのではないかと思われるケースを多く見かけるようになりました。現に「暮らしの場」が自宅では難しくなり、到し方なく短期入所を繰り返している人、そこまで至らずとも人知れず踏ん張っている家庭もあり、支援の必要度は物差しのような物で計れるものでもないと思いつつ、少なくとも近い将来の展望を持ちながら暮らすことのできる地域であってほしいと切望しています。

入所を否定するものではありませんが、自宅での暮らしと入所での暮らしは明らかに違いがあります。CH/GHが住み慣れた地域にたくさんできて、気軽に自宅と行き来ができれば・・・二十歳過ぎたんだから・・・と未知なる暮らしを夢見る息子も私も一人の人間であるのだから、適度な距離感でそれぞれの人生があっという間はすなわすけれど、どうでしょう。

東久留米市 南沢 長田菜穂美



法人行事

『リサイクル久留店』

のぞみの家 チャレンジ班が中心となって、手作りキーなども販売しています。

- ◎場所：滝山団地センター前広場
- ◎日程：12月8日(水)16日(木)
- ※雨天中止、また、天候によっては中止・開催時間短縮の場合もあります。

『ポーナズバザー』

活動センターかなえ なのはな班

- ◎日時：12月2日(木)22日(水)
- ◎場所：滝山団地センター前広場
- ※雨天中止、また、天候によっては中止・開催時間短縮の場合もあります。

『かなえ・なかま作品展』

かなえ・なかまの家の利用者の陶芸・木工作品・絵画などが活動風景の写真とともに展示しています。お気軽においでください。

- ◎日時：2月3日(木)～4日(金)10時～17時  
5日(土)10時～16時
- ◎場所：スペース105 (市役所向かい)



『びゅあ・あーと展』

法人行事ではありませんが、多摩六都「びゅあ・あーと展」が開催されます。

ただいま各作業所で出品作品を選んでいるところです。今年は誰の、どんな作品が入選するか楽しみです。多摩六都フェア「第5回びゅあ あーと展」主催：多摩北部都市広域行 政圏協議会

日時：1月26日(水)16時～  
27日(木)28日(金)  
10時～17時  
場所：東久留米市役所内 市民プラザ・屋内広場

ご寄付をいただきました。

(10月末日まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございます。いただいたご寄付は法人各施設の充実に、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

崎原ひとみ様

藤田 祐子様

ありがとうございます。

編集後記

毎年恒例、10月末(今年は29日開催)の全国大フォークラムに参加してきました。イリアンソスの利用者さんはもちろん、全国から約1万人が集まり、日比谷公園から厚労省へ向け、「私たちの声よとどけ!」と大アピール。熱気で肌寒さが吹き飛ばすほど。夕方からは公園を出て銀座の街を行進。声を腕をあげてアピールもしっかりしてきました。歩道からではなく車道から見ると銀座の街はなにか不思議でした。

さて沿道の人たち、全員が好意的な視線を与えてくれているわけではありませんでした。また公園での「私たちの声」が厚労省や政治家の人たちに届くかも不安です。しかし声を出し、行動して行かなければ、視界に入ることもし難いでしょう。11月27日には、イリアンソスの新生活寮立ち上げマラソン・スピーチがあります。地域で生活すること、地域の一員であることもしっかりとアピールしてきたと思います。

編集委員 安達 聡

編集委員会から…

表紙を飾る作品を募集しています。

「ぜひ表紙を飾りたい」という方のご応募をお待ちしています!

《 発行 》

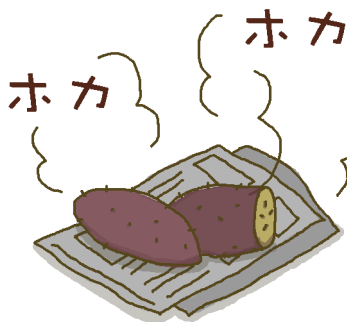
特定非営利法人 障害者団体定期刊行物協会  
〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21  
Tel 03-3416-1698 Fax 03-3416-3129

《 企画、編集 》

社会福祉法人 イリアンソス  
〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18  
Tel 042-473-9027 Fax 042-473-9036

《 編集委員会 》

安達 聡、池田苗生子、磯部光孝、金野博志、  
多田由美、矢島正樹、吉田遊佑



定価 100円